

9 がん			
目標項目：9-1 がん検診受診率の増加			
目標値 (平成 22 年)	ベースライン値 (H12 県民健康栄養 調査)	中間評価 (H17 県民健康調査)	直近値 (H22 県民健康・ 栄養調査)
胃がん (40 歳以上) 70%以上	50.2%	53.1%	55.5%
肺がん (40 歳以上) 70%以上	61.0%	71.2%	68.7%
大腸がん (40 歳以上) 70%以上	41.3%	51.0%	53.0%
子宮がん (20 歳以上) 70%以上	37.3%	43.5%	47.3%
乳がん (40 歳以上) 70%以上	36.4%	42.3%	48.8%
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン 値に対してどのような動き になっているか分析)	平成 12 年から平成 22 年までの比較結果は下記のとおり。 ○胃がん検診の受診率は有意に増加した (片側 P 値=0.013)。 ○肺がん検診の受診率は有意に増加した (片側 P 値=0.003)。 ○大腸がん検診の受診率は有意に増加した (片側 P 値<0.001)。 ○子宮がん検診の受診率は有意に増加した (片側 P 値<0.001)。 ○乳がん検診の受診率は有意に増加した (片側 P 値<0.001)。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題 や留意点がある場合に記載)	○平成 17 年の調査結果は仙台市以外の地区のみの値である。 ○平成 17 年の調査結果では、無回答者を母数に含めて該当者割合を 算定していたが、平成 12 年、平成 22 年と比較するため、有効回答 のみを母数として該当者割合を再計算した値を掲載した。		
その他データ分析に係る コメント	○平成 22 年国民生活基礎調査の全国平均では、胃がん 30.1%、肺がん 23.0%、大腸がん 24.8%、子宮がん (過去 2 年) 32.0%、乳がん (過去 2 年) 女性 31.4%となっており、いずれも全国よりも高い。		
最終評価及びコメント	○すべての項目で改善した	評価 B	
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ、今後強 化・改善等すべきポイント)	○全体的に改善傾向ではあるが、目標には届いていないので、未受診 者への受診勧奨やキャンペーン等を行って行く必要がある。		

9 がん			
目標項目：9-2 がん検診受診者数の増加			
目標値 (平成 22 年)	ベースライン値 (H16 国民生活基礎調査)	中間評価 (一)	直近値 (H22 国民生活基礎調査)
胃がん (40 歳以上) 928,000 人以上	471,000 人	—	568,280 人
肺がん (40 歳以上) 928,000 人以上	273,000 人	—	442,571 人
大腸がん (40 歳以上) 928,000 人以上	362,000 人	—	463,350 人
子宮がん (20 歳以上) 348,000 人以上	150,000 人	—	423,261 人
乳がん (40 歳以上) 248,000 人以上	108,000 人	—	322,557 人
直近実績値に係るデータ分析 (直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析)	平成 16 年から平成 22 年までの比較結果は下記のとおり。 ○胃がん, 肺がん, 大腸がん検診はいずれも増加した。 ○子宮がん, 乳がんは目標を達成した。		
データ分析上の課題 (調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載)	○国民生活基礎調査の宮城県分の各検診の全体の受診率に, 各年・各年代の人口を乗じて算出した人数。		
その他データ分析に係るコメント	○平成 22 年国民生活基礎調査の受診率の全国との比較では, 胃がん全国 30.1%, 県 43.4%, 肺がん全国 23.0%, 県 33.8%, 大腸がん全国 24.8%, 県 35.4%, 子宮がん (過去 2 年) 全国 32.0%, 県 42.6%, 乳がん (過去 2 年) 全国 31.4%, 県 46.2% となっており, いずれも全国よりも高い。		
最終評価及びコメント	○全ての検診で受診者数は増加しており, 子宮がんと乳がんは目標を達成した	評価 胃がん } 肺がん } B 大腸がん } 子宮がん } A 乳がん }	
今後の課題及び対策の抽出 (最終評価を踏まえ, 今後強化・改善等すべきポイント)	○全体的に改善傾向ではあるが, 目標には届いていないので, 未受診者への受診勧奨やキャンペーン等を行って行く必要がある。		